

5月30日 高校総体壮行式

## 「私だけの優勝旗」

試合に出てプレーする選手、ベンチで自分の出番を待つサブメンバー、スタンド応援するチームメイト、チームを支えてきたマネージャー、会場を駆け回って取材をしたり、現地で応援する仲間、放課後だけでなく、休日も指導し、遠征にも連れて行ってくれた顧問の先生、仕事帰りに指導に来てくださったコーチ、お弁当を作ってくれたり、送り迎えしてくれた親、それぞれの立場の人が、それぞれの思いを抱いて、高総体が開幕します。

私の話が終わったら、自分に対して、チームメイトに対して、仲間に対して、親に対して、先生やコーチに対して、感謝込めて、そして健闘を誓い合って、全員で大きな拍手をして締めくくりたいと思います。

スポーツの大会に臨むのであれ、文化部のコンクールやコンテストであれ、受験であれ、何事に挑むにあたって、これで完璧に準備をやり尽くしたということはありません。やろうと思えばいくらでもやりたいことや、やり残したこしたことは際限なく出てきます。先日終わった中間試験を思い出してください。時間があればいくらでもやることはあったはずですが、十分に理解していないところとか、よく覚えていないところが試験に出たらどうしようと不安を持ちながら試験に臨んだ人もいられるかもしれません。大一番に臨む時、だいたい人は3つのタイプに分かれます。まず、一つ目のタイプ、「もうだめだ」と、やる前から諦めている人。二つ目、「あれもやっていない、これもやっていない。どうしよう。」と、不安を抱えて本番を迎える人。三つ目、「やることはやった」と、自信を持って本番を迎える人。今、自分はどのタイプだと思いますか。

ここに積み木があるのを想像してください。こちらにはきちんと積み上げられた積み木。こちらにはまだ積み上げる前のバラバラの積み木。きちんと積み上げられた積み木は、これまでの練習や練習試合で積み上げてきた技能・技術、体力、精神力です。バラバラの積み木はまだまだやっていないこと、やり残していることです。諦めている人と不安を抱えたまま勝負に臨む人は、バラバラの積み木の方を見ている人です。一方、自信を持って勝負に臨む人は、きちんと積み上げられた積み木だけを見ている人です。ベストを尽くすというのは、これまで積み上げてきたことを試合でいかに発揮するかということです。試合前にバラバラの積み木を見て、後悔したり、反省したりする人は力を発揮できません。この中には、これまでの公式戦や練習試合で、ほとんどの試合で負けてきた部があります。その度に自信をなくし、辛く悩んだ人もいます。意見がぶつかり合ってぎくしゃくした時を経験した部もあります。部員が少なく試合に出れない不安を抱えながらも何とかコートに立つ部もあります。チームをどうまとめていいか迷い、悩み、一人涙したキャプテンもいます。そういった様々な経験を通して皆は強くなりました。その経験は、積み上げられた積み木の方にきちんと積みあがっています。胸を張って、自信を持って戦ってきなさい。勝負事で一番大事なことは、やってきたことに自信を持ってグラウンドに立つ、コートに立つ、スタートラインに立つ、バッターボックスに立つことです。そして試合が始まると敵は二人います。一人は相手です。もう一人は誰ですか。それは自分自身です。弱気になる自分、自信がない自分、勇気がない自分、あきらめる自分、躊躇する自分、失敗したらどうしようと怖がる自分・・・そういう自分に打ち勝つことです。

技術や力だけで勝負が決まるわけではありません。下馬評とか、これまでの実績どおりに勝負が決するのであれば、試合はする必要ありません。番狂わせが起こったり、優勝候補が初戦で負けることもしばしばです。技術や力は相手が上でも、相手に勝てるものが沢山あります。それは、「絶対勝つんだ、という気迫」「漲る自信」「試合中の声掛け」「仲間がミスしたら笑顔で励ますチームワーク」「最後まで諦めない気持ち」「切れない集中力」「ベンチやスタンドからの大きな声援」……。これは技術や力とは全く関係ありません。必ず相手に勝てます。

最後に一つ約束してください。優勝しない限りどこかで負ける時がきます。しかし、その時に「試合には負けたけど、これは相手に勝った」というものがあるはず。それを学校に持ち帰って来る。それはみんなにとって、チームにとって、口加高校にとっての立派な優勝旗です。その「私だけの優勝旗」を堂々と胸を張って学校に持ち帰ってください。それは必ずこれからの人生の「自信」となり「誇り」となり、次のチームへの財産となります。何を持ち帰って来たのか、6月7日の報告会の時に、私たちに聞かせてください。

### 誇りを持って

高校総体 それは学校と学校のぶつかり合い

「誇り」と「誇り」の真剣勝負

これまでの練習に誇りを持って

磨き上げた技と力に誇りを持って

そばにいる先生やコーチに誇りを持って

共に頑張ってきた仲間に誇りを持って

使い込んだ道具やユニフォームに誇りを持って

もし 誇りをなくしそうになったら

ユニフォームに刻まれた口加の文字を握りしめよ

そこには母校という誇りが詰まっている

そして 汗と泥と涙にまみれた君たちは私達の誇りです

健闘を祈る

口加高校教職員一同より